

## ■会議報告

## 第9回 XAFS 討論会の報告

脇田久伸 (福岡大学理学部)

栗崎 敏 (福岡大学理学部)

第9回 XAFS 討論会 (XAFS9) が九州で初めて開催される XAFS 討論会として2006年9月7日(木)から9日(土)にかけて福岡大学七隈キャンパス(福岡市城南区)で開催された。2005年の8月に仙台で開催された第8回 XAFS 討論会 (XAFS8) で日本 XAFS 研究会から開催を委嘱され、早速開催地の検討を行い、参加者の便宜と開催経費削減の点から勤務先を開催地とした。開催時期については検討を要した。それは2006年の7月9-14日に第13回 XAFS 国際会議がスタンフォードで開催されることになっており、この会議には多くの日本の XAFS 研究者が参加すると予想されていたからである。結局、例年の開催時期であった7月下旬から8月初旬を避け、さらに勤務先の諸行事を考慮に入れ上記の期間と設定した。2005年11月に XSJ のメーリングシステムで開催日と開催地の予告を行い、2006年3月になって実行委員会およびプログラム委員会を設置・開催し、各学会誌への開催予告原稿内容の検討を始めた。過去の本討論会に倣って討論内容を「X線吸収微細構造 (XAFS) 及び関連現象に関する理論、解析方法、実験技術、基礎及び応用研究」とした。講演も従来どおり招待講演、一般講演、学生賞講演としたがこれらの外に5分のオーラルを課したポスター講演を設けてみた。これは XAFS のユーザー数が多いわりには本討論会への参加者数が少ないと感じていたからである。スタンフォードの国際会議があったにもかかわらず、結局、講演件数は、招待講演3件、一般講演32件、学生賞講演14件、ポスター講演19件となり、前回に比べてポスター講演が増えたことになり、胸をなでおろした。なお、参加者数は104名となった。

まず、開催日前日の6日(水)午後、佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター施設見学会が、センター職員岡島敏浩実行委員による案内で行われた。九州で初めてで、かつ、日本で初めての県立シンクロトロンであることも興味を集めたらしく多くの参加者で賑わった。

初日は10時30分から SP-8 ユーザーグループ会合が行われた。次いで討論会が始まり、SP-8の寺田靖子氏の招待講演「放射光マイクロビームを用いた XAFS 分析と環境試料への応用」があった。SP-8 で開発・設置された放射光マイクロビームの詳しい説明とそれを用いたいくつかの環境試料への応用例は非常に興味深いものであった。次い



で一般講演14件が行われた。この一般講演の前半の7件は理論系の、後半の7件は実験装置がらみの講演であった。最後に PF のユーザーグループ会合があり、XSJ の今後などをめぐって活発な討議があった。

翌日は千葉大の藤川高志氏による招待講演「XAFS 理論の発展-実験結果を解析するには」から始まった。XAFS 理論をできるだけ易しく話してほしいという座長の渡辺 巖 XAFS 研究会会長の希望に沿われてか非常に分かりやすいご講演であった。そのためか活発な質問が相次いだ。その後、学生賞講演が14件あり、学生や若手からの質問がなされていた。午後は今回初めての試みであるポスター講演の5分間オーラル講演が一気に19件行われた。初めての試みであったので混乱が予想されたがほとん

どの講演者が周到に用意されたパワーポイントを用いて時間内に講演された。このオーラルでも質問を受けるようにしたが短い講演時間にもかかわらず内容を理解された質問があり、ひとまず成功と思う。その後、ポスターセッションが会場外の休憩場で行われた。参加者のほとんど全員がこのセッションにも参加され、ポスター講演者と熱心に討議された光景があちこちに見られ、従来のポスターセッションより中味が濃いように感じたのは主催者側の独りよがりか。最後に総会が会場に戻り行われ、PF 野村昌治氏が次期会長に選出された。その後、同じ建物の最上階にある食堂で懇親会が開催された。懇親会では学生賞講演選考結果を私（栗崎）が報告後、渡辺会長から弘前大理工の新田清文君に賞状と副賞が授与された。こちらも80名ほどの参加者があり、用意した料理がなくなり、2回ほど追加をしなければならぬほどであった。

3日目はまず、11件の一般講演があり、昼食後、九州シンクロトン光研究センターの岡島敏浩氏の招待講演「九州シンクロトン光研究センターのこれまでとこれから」があった。岡島氏の講演は九州シンクロトン光研究センターの特徴と現在までに得られた結果および将来構想についてであり、これに対して利用法や手順などについて質問

があった。その後7件の一般講演があった。3日目の一般講演は主として各種試料のXAFS解析の講演であり、引き続き活発な討議があり予定の4時を少し過ぎて閉会した。

討論会への参加者の顔ぶれが固定化しているようにも感じられたので本討論会として初めてポスター講演を取り入れてみた。これが新しい参加者獲得となっていけば幸いである。会長、次期会長の希望である出来るだけ若い人が質問をし易いようにすることは今後も続けていくことも大切であろう。今回、国際会議の関係で招待講演者の決定が遅れ、本討論会の宣伝に寄与できなかったことは反省材料である。次回は出来るだけ早めに日程や招待講演者などを決めXAFSに関心を持たれる多くの方々に周知徹底を図ることによってより一層活発な討論会となるよう期待したい。次回は北大朝倉先生により北海道で開催される予定である。

最後になるがリガク、ニコンインステック、神津精機、X線技術研究所、トヤマの各社にご後援いただいたことを御礼かたがたご報告する。また、宇田川前討論会実行委員長、渡辺前会長にはいろいろ相談に乗っていただいた。ここに記して感謝します。